豊栄稲荷神社の由来について

１．鳥羽藩士　稲垣幸作の邸内に弁財天と共にお祀りしていたが、明治１１年　弁財天のみ対岸の相島（現真珠島）に遷した。

２．明治１６年２月　光岳寺住職を豊川稲荷へ参拝させ、その分霊を請け、これを収め以来祭祀してきた。

３．明治２９年９月　鳥羽鉄工合資会社が譲り受けて祭事。

４．明治３１年　鳥羽鉄工合資会社では、ドック拡張のため、工場より城山の上へ稲荷を遷し、船渠（ドック）稲荷と改称した。

５．明治３６年　有志の寄付により社殿の造営に着手、翌年２月７日竣工。

６．明治３７年２月１０日　新社殿完成に伴う神遷式を挙げ、以来毎年４月３日に祭典を行うこととなる。

７．明治４１年１月２８日　京都伏見稲荷神社に請願し、大式令による神霊を授けられ、正一位船渠稲荷神社と改称する。

８．昭和３３年４月　神鋼電機株式会社鳥羽工場と賀多神社が協議、城山のドック稲荷を賀多神社境内へ遷座することが決まり、同年６月１日工事に着工。

９．昭和３３年１０月３日　社殿完成により賀多神社へ遷座。正一位豊栄稲荷神社と改称。
以来１０月３日を祭典の日と定め、今日に至る。

以上

（１９９７．９．１６　松井　記）

この由来書は、平成９年当時、本町町内会会長の「松井　章」氏が調査して、メモしたものを転写したものである。

平成 25 年 3 月 19 日
本町町内会長
大川義純

本町町内会長印